「公益社団法人　日本口腔インプラント学会指定研究施設」

東京形成歯科研究会
&インプラント国際情報

H.25.3.27（WED）
No.13

原稿募集中

発　行
編　集　東京形成歯科研究会
企　画　オクデラメディカル
発行者　奥　寺　　元

東京都北区王子２-26-２-3F
TEL 03（3919）5111
FAX 03（3919）5114
E-mail：okudera@carrot.ocn.ne.jp
http://www.tpdimplant.com/

第100回 日本美容外科学会に参加して

東京形成歯科研究会会員
世田谷区開業　キクチ歯科　菊池 龍介

２０１２年５月26、27日の両日、ホテルオークラ東京にて第１００回日本美容外科学会が開催されました。主催は財団法人日本美容医学研究会であり、会長は十仁病院院長の梅澤 文彦 先生、学術委員長には東京形成歯科研究会でも講義をされている赤松 隆 先生、企画委員長に高須クリニックの高須 克弥 先生、そして顎顔面口腔部門の学術委員である奥寺 元 先生が主要メンバーとして名を連ねています。

奥寺 元 先生は10年以上前から日本美容外科学会の場で、歯科の技術と美容外科の分野との関連性についてアピールされ今日の地位を築かれてきました。それは、歯科界の領域を拡大する事と、地位の向上を目指しての事であり、先見の明に秀でていました。今回、私もポスター発表の機会を頂き、奥寺 先生ならびに諸先生方の長年のご努力に思いを馳せた次第です。

学会当日は天候にも恵まれ、東京形成歯科研究会からも多くの先生が参加されました。会場に入ると展示ブースがあり、馴染みのある歯科の学会のそれとは異なる雰囲気でした。美容外科関連の器械器具から化粧品に至るまで、梅澤会長が説く「幸福医学」の実現を目指したものである事が感じられました。治療や予防・メンテナンスが主体の歯科界とは異なるベクトルを有していました。

プログラムの演題を見ても、鼻形成・乳房・Face&Body Contouring・リフトアップ・痩身・若返り等の言葉が目につき、美容外科の領域が身体のパーツから全身のコーディネイトにいたるまで網羅している事が伺えました。

顎顔面口腔分野（歯科という言葉は使われていない）からは、高戸 毅 先生（東京大学医学部口腔外科学教授）の骨軟骨再生医療の将来性についてのお話を筆頭に、奥寺 俊允 先生の自己血由来生体材料とrhBMP-2を使用した軟組織・硬組織再生療法についての発表等がありました。総括のかたちで、奥寺 元 先生がデンタルインプラントを応用した顎骨保全と再建、さらにPRPによる硬・軟組織の再生を加えた生理的な機能改善と顔貌の審美回復についての方向性を示してくれました。

さて、私も参加させて頂いたポスターセッションでありますが、インプラント治療がGBRやPRPの応用下に施術され、顎骨の保全と再建そして軟組織の再生へと軸足を移している事が印象的であり、美容外科医とのコラボレーションを図った鈴木 正史 先生の症例は注目に値するものでした。私の発表はコンピューター解析機による下顎位の診査と新たな下顎位の決定法、ならびに、下顎位が咀嚼筋群や表情筋群に及ぼす影響と美容外科との関係を述べたものでした。発表の冒頭で、「美容外科の先生方にお伝えしたい根源的問題があります。」と語りかけたのが功を奏したのか、梅澤会長が最後までじっと聞いてくださったのが印象的でした。各ポスターの短い発表の後では、奥寺先生のまとめのコメントがあり、充実した時間が流れていきました。

夕刻から開催された謝恩パーティーについてもふれておきます。華やかな会場は人で溢れんばかりで、政界の大物氏の挨拶もあり盛り上がりました。１００回の節目の学会という事もあり、役職の先生方の表彰が行なわれました。奥寺先生の表彰の時には、歯科関係者以外からも大きな拍手がありました。

第１００回日本美容外科学会は、私にとって「他流試合」として記憶に留まる事と思います。ありがとうございました。

美容外科会頭梅澤先生と著者

懇親会において高須克弥先生と

column

「保険に導入したいもの、外したいもの」

「インプラント」の保険導入の問題を解説

奥寺 元

歯科診療科目の保険導入はこれまでにも数々の治療技術が不採算部門として議論されてきた。一方、近年国民の歯科治療としてほぼ定着している口腔インプラント治療の保険導入待望論が術者、患者双方から浮上しつつある。術者側には歯科の重要な自由診療として「保険導入はあり得ない」と主張する向きもあるが、インプラント除去の一部はすでに保険導入されており、先般の歯科診療報酬改定では条件付きながら保険適用されている。

私は日本口腔インプラント学会の保険・医療委員時代に、当時の委員長や学会理事に分析、検討を急ぐように提言した。しかし、これについての委員会の開催は1回もなく、乗り遅れという大失態を招いた経緯がある。

術後の口腔機能回復の良さや治療効果から判断してインプラント治療の意義は大きく、口腔の重要性を国民に再認識させるに十分なものである。さらに国民が切に望む医療行為であるならば術者にはそれに前向きに応える義務があり、それが民主国家であるとも言える。

個人的見解としては保険導入すべきだと考えている。ただし、そのためには術者、患者双方が一体となりインプラント治療実態を把握し、問題点を含めあらゆる事柄について認識を共有する必要がある。しかし、既存の保険点数配分と大きくかけ離れてしまうと行政は動かないので実態のある点数と照らし合わせてみるのを忘れてはならない。

インプラントの医療行為の費用には、診査診断に始まり、骨再生を含めた手術行為があり、これには処置費や材料費も含まれる。そして、インプラントボディを含む関連材料、経過観察時の医療行為、上部構造の診査診断および製作に関わる処置、上部構造の材料および技工製作費、装着日、調整費経過観察日、インプラントゆえのメンテナンス、さらにケア費等が入る。

現行の保険点数から考えるとインプラント埋入の保険点数には相当の担保が求められる。インプラントP配分ではメンテナンスも入れた点数を診断から定期診査まで導入。骨処置に対する実際処置は既存の顎骨形成点数相当の４００点。インプラント埋入術は骨処置水平相当の３０００点。骨再生およびサイナスリフト術は顎関節開放型受動術相当の７３００～２２８２０点。上部構造は補綴関係者の議論に譲りインプラントだけの技術で安く見積もって1本単位１６００点あれば、自由診療に近付けて現実的と言える。

インプラント材料は行政とのやり取りであり、企業のインプラント材料価格は保険導入とともに抑えられなければならないと考える。

従来型の中医協絡み組織での診療報酬点数配分では無理がある。総合的で現実的な流れの中から検討を加えるべきで、最初からしり込みしていては何も生まれない。国民が望み、現行での配分が可能となれば誰も無理とは言わないだろう。

日本歯科新聞２０１３年２月５日
第１７７５号掲載

第42回日本口腔インプラント学会学術大会に参加して

東京形成歯科研究会会員
山口県開業　いそべ歯科医院
磯辺 和重

２０１３年９月21日～23日、大阪国際会議場で第42回日本口腔インプラント学会に参加してきました。今までも毎年のようにインプラント学会には参加してきましたが、今回は初めての発表ということで、いつもとは違った学会でした。

事前に神奈川歯科大学 健康科学講座 口腔保健学分野 准教授であり、東京形成歯科研究会顧問木本先生と奥寺会長により、手とり足取り教えていただきました。

初回の打ち合わせでは、研究内容についての概略を教えていただきました。発表の基礎知識を得るために母校の図書館に行き、関連論文をコピーすることから始めました。図書館での論文探しは学位の時以来となりその進め方も忘れてしまっていました。その日は20以上の論文をコピーして帰りました。久しぶりの英語の論文に戸惑いながら、特に関連の深いものを選び出し訳しながら、勉強していきました。

２度目の打ち合わせでは、FESEM像、X線回折、EDX分析など専門的な事項を素人の僕にも分かるように、大変丁寧にご指導していただきました。

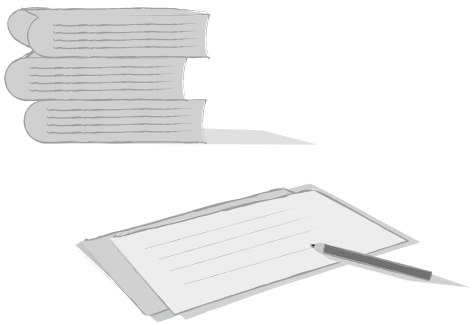
学会の前日には、東京形成歯科研究会のメンバーで予演会が行われました。たくさんの先生方より予想質問事項など様々なご指導をいただきました。

当日は木本先生がつきっきりでサポートしてくれました。朝から一緒に発表会場を下見に行き、その後関連のありそうなブースを回り、「大したことないだろう」と勇気づけていただきました。

発表本番も、会場に同席して力強くサポートしてくれました。

発表後の昼食は、奥寺会長、木本先生とご一緒させて頂きました。解放感も手伝ってとても美味しい食事でした。

今回はこのような貴重な機会を与えていただき、非常に感謝しております。



東京形成会から始まったケープレ試験が終わって

東京形成歯科研究会会員
前橋市開業　ひまわり歯科
関口 剛

今回のケースプレゼンテーション試験を受けるにあたり、症例の準備から抄録、ポスターの製作、試験会場に行くまで奥寺会長、俊允先生をはじめとして、東京形成の方々に大変お世話になりました。また、試験官の先生方にも、写真やデータの扱い方まで色々とご指導して頂きました本当に感謝致します。

東京形成に入会した頃、会のレベルの高さに少なからずのショックを受け、程なくビーグル犬を使った骨造成研究の現場を見せて頂き、骨膜下インプラントのオペとその長期症例をこの目で見る事も出来ました。巷の講習会や講演会とは一味違う、実践的、先進的な実例を見て、常識と思っていた事がひっくり返る期間となりました。

そんな経験をしながらの5年間で、ケープレ発表用資料のために、写真を撮る習慣をつけ、きれいな写真を撮れるように専用のカメラを用意し、スタッフ達も訓練し、段々と器具も増え、画像記録のPCソフトも揃え、いつしかレントゲンもデジタルになり、カメラも台数が増えました。

思い返すと、大学卒業当時は、口腔内写真を撮る事になるとは思っていませんでした。インプラントを扱うようになるとも思っていませんでした。それから思えば、画像記録をするだけでも大進歩でした。

そんな事をしている間に、会に顔を出すメンバーの顔触れが変わって行きました。

自分もそろそろケープレ試験を受けようと決め、症例を選び、試験用資料を作るため、今まではほとんど触る事もなかったワードやパワーポイント、メールも、必然的に使い方を覚える事になりました。結果、院内マニュアルや勉強会資料を作る事も始まり、自分の診療室の有り方まで変わる事になってきました。抄録文等、最終的に自分で書いた文章は、書き直したといった方が良い程に校正して頂きメイドイン（？）ですが、その過程でも、診断や治療計画の立て方まで改めて見直し、良い復習となり課題も出てきました。今後、自分の診療室がスタッフ達も含め進歩していくきっかけになると思います。

今後も、ツワモノ揃いの東京形成歯科研究会で実践的な話を聞きながらレベルアップをしていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

information

ご挨拶

この度、一身上の都合で(有)奥寺メディカルを退社する事となりました。

入社以来10年近く会の業務に携わり、多くの先生方とお会いする事ができました。先生方には多々、ご迷惑をおかけした事と存じます。

東京形成歯科研究会での思い出は、平成17年11月26・27日に主管として開催した、第25回日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部総会です。まだ、右も左も分からない状態の中でお手伝いする事となり、毎日各先生方に連絡をさせて頂き、一つ一つ確認をしながらの業務でした。進行状況や役割分担を何度も打合せをし、学会をむかえたつもりでしたが、当日は多数の参加者があり、講演者の先生方のお名前とお顔が一致せず、会員の先生方に教えて頂きながら進行した事を思い出します。先生方の御協力を賜り、盛会裡に終了しましたが、その週は体調を崩し、寝込んでしまいました。その後は、毎年インプラント学会の総会・支部総会に同行し、日本全国に行かせて頂きました。北海道から九州まで行き、各地で会の懇親会に参加して、色々なお話をさせて頂き、勉強させて頂きました。今後の人生において、今までの経験を活かして行きたいと思います。

最後に、東京形成歯科研究会会長、奥寺元 先生、名誉顧問、小嶋 榮一 先生、多大なる御指導・御鞭撻を賜り、誠にありがとうございました。

(有)奥寺メディカル
東京形成歯科研究会 事務局
佐野 泰弘

東京形成歯科研究会創立30周年記念講演会、感動の行事を施行

東京形成歯科研究会会員
本宮市開業　あい歯科クリニック　西山 和彦

東京形成歯科研究会創立30周年記念行事は11月17日（土）夜のWelcome Partyから幕を開けた。生憎大型台風の接近で土砂降りの雨であったが、後楽園近くの料亭に石川 烈先や元咀嚼学会理事長の斉藤 滋先生を始めとする平素、会の運営に尽力されている先生方が出席され、また海外からもShu先生（台湾）、蘇 正堯 先生（台湾）、Dr. Foo先生親子（マレーシア）がお祝いに駆けつけてくれた。さすが、本会が目指すグローバルな医療理念が実現した交流は、意義深く国際談義に花が咲き、会役員も交えて、和やかに懇談を楽しんだ。

翌日はすっかり雨も上がり、銀杏の葉も落ちた、東京大学構内の由緒ある医学部記念講堂である鉄門講堂にて、午前中は本事業のテーマである再生医学の最前線に関わる内容の講演が、歯科医師向けに開かれた。講師は奥寺元 先生（当研究会会長）、蘇 正堯 先生（台湾陽明大学教授）、斎藤 正寛先生（東京理科大学）、石川 烈 先生（東京医科歯科大学名誉教授）、高戸 毅先生（東京大学教授）が務めたが、これだけの第一線級の講師を集めた事は驚きであり、全て明日の臨床に応用できるような内容だった。

午後は市民文化公開講座として、十仁病院医院長・美容外科学会会頭である梅澤 文彦 先生、俳優の宝田 明 氏、DVD出演であったが、ワタミ会長の渡辺 美樹 氏、元大相撲親方渡辺 大五郎氏、最後に高戸 毅 教授が審美・美容に関わる一般向けの話をされた。内容は、口腔機能が如何に大切かという事を認識させ、一般市民は滅多に見る事の出来ないような超有名人の話に、会場は大いに盛り上がった。

講演後は会場舞台で日本在住30年の二人のアメリカ人バンド「ハートto ハート」による演奏、続いて（芸名）佐藤みどり会長夫人の民謡、最後にはエレキギターと津軽三味線のコラボレーションもあって楽しいひと時であった。

終了後、歯科関係者のみで、同講堂内のレストランにて懇親会が開かれ、約150名の参加者が各界それぞれの立場で懇談・交流し、創立30周年を祝った。

シンポジウム演者一同

宝田明氏と奥寺会長

祝賀会にて会長と共に元高見山親方と著者

東京形成会30周年記念講演会に参加して

―歯科界に業績の痕跡を残して―

東京形成歯科研究会会員
龍ヶ崎市開業　牧歯科医院　牧 浩壽

東京形成会30周年記念講演会が、2012年11月18日に東京大学鉄門講堂にて執り行われました。当日は東京形成会を祝福するがごとく、澄みきった青空が広がっていました。開始時刻が近づくとともに、数多くのご来賓の方々が続々と会場である東京大学鉄門講堂にお越しになられ、会場は熱気に満ちた状態で記念講演会が始まりました。奥寺施設長による、輝かしいこれまでの30年について、そして未来への展望を含めたご挨拶のあと、ご来賓の先生方の講演へと続いていきました。台湾国立陽明大学の蘇正堯先生は、組織再生の加速のための、成長因子の美容外科領域への応用についてご講演されました。東京大学高戸毅教授による再生医療最前線のご講演、東京医科歯科大学石川烈名誉教授による歯根膜シートに関してのご講演が行われました。いずれも現在進行中の最新の研究、医療についてのご講演内容であり、東京形成会の集いであればこそ聴講できる、未発表の研究成果が多く披露され、東京形成会会員であるからこそこれらの知見に触れることができることに大変な喜びと誇らしさを感じました。

午後からの市民文化公開講座においては、十仁病院院長である梅澤文彦先生による、美容と笑顔についての大変に分かりやすいご講演が行われ、一般の方々が大変熱心に聞き入っておられました。いろいろな質問が聴講の方々から出ましたが、梅澤先生のご丁寧なお答えに皆様大いに頷かれていました。

奥寺先生のご交遊の幅広さにはいつもながら驚かされておりますが、今回はあの元高見山親方の渡辺大五郎氏、そして超大物芸能人の宝田明氏が次々と舞台に登場、会場は大盛り上がりとなりました。さらにはワタミ会長の渡辺美樹氏によるDVD出演もあり、盛りだくさんの内容で、参加者の方々に、お口の健康と笑顔、そして食べる楽しみのつながりと重要性が十分に伝わっているようでした。

舞台のトリは、外国人ユニット、ハートto ハート、津軽三味線演奏者 小山貢力氏そしてコロンビアレコード所属演歌歌手の佐藤みどりさんによる演奏会で、ことわざマンボなどでみんなで歌って舞台は最高潮となりました。

記念講演会終了後、舞台は懇親会へ。実に多くのご来賓の方々ならびに東京形成会の会員の先生方がびっしり会場を埋めつくし、素晴らしい祝辞ならびにご挨拶を頂戴いたしました。美味しい料理をいただきながら、眺望に恵まれた鉄門講堂の13階会場からふっと外を眺めると、そこにはまるで東京形成会の未来を現すが如く、スカイツリーが燦然と夜空に輝きを放っていました。

当研究会員の活動が新聞記事に

(5)　第1779号　2013年（平成25年）3月5日（火曜日）　日本歯科新聞　（第3種郵便物認可）

チタンの骨結合

60年来の謎を解明か

北大名誉教授ら　リンタンパク質の機能が鍵

チタンと骨が結合する生化学的メカニズムの鍵は、リンタンパク質の機能が握っている―。2月23日に札幌市の札幌北楡病院で開かれた第25回代用臓器・再生医学研究会で、北海道大学名誉教授の久保木芳徳氏は、これまで不明とされてきたチタンの骨結合の生化学的機序について、新しい仮説を紹介した。

チタンが生きた骨に強く結合する事実は60年前にスウェーデンのブレノマルクによって偶然発見され、その後世界中の全ての人工関節、人工歯根に使われさまざまな実績を示してきたが、その生化学的機序の研究は、全く進んでおらず、謎だった。

久保木氏らは、多数のタンパク質とチタンの結合を調べるため、チタン微粒子充填クロマトグラフィーを開発。「アルブミン」や「リゾリーム」などの身近なタンパク質は結合しなかったが、セリンリン酸を含む「カゼイン」や「フォスビチン」に強く結合することが偶然分かった。そこで直ちに、象牙質に含まれるリンタンパク質「ホスホホリン」を分析し、チタンとの結合を確認。さらに、骨粉の抽出液を用いて、チタンとの結合を調べたところ、シブリングタンパクと呼ばれる4種類以上ある骨のリンタンパク質がチタンに結合することを発見した。

同研究は北海道大学と東北大学の間の共同研究。㊤骨の研究50年目となる久保木氏と、㊦同研究成果によって世界で初めて歯科医師として医工学博士が授与されるという古澤氏

これを受けて東北大学大学院・医工学研究科の古澤利武氏（仙台市歯科医院開業）は、リンタンパク質をチタン微細繊維によるスキャフォールドに再結合させ、ラット頭蓋骨に埋植。対照群との比較では、初期の骨形成量が圧倒的に増加し、1週目で300倍に及ぶ結果が示されたという。

これらの結果から久保木氏は、骨に埋植されたチタンが骨中のリンタンパク群に遭遇して結合し、リンタンパク質が有する細胞接着機能や骨関連細胞分化機能、石灰化機能などによって、チタン表面に強く結合した骨組織を急速に形成すると分析。「60年来の謎の一部が解明された。今後、チタン製人工歯根ならびに人工関節を、骨リンタンパク質のエッセンスで処理することにより、チタン周囲に骨が呼び寄せられ、骨結合が圧倒的に効率化できると予測される」と臨床応用に向けた可能性を示唆している。

秋田県歯が条例施行で

集団フッ化物洗口に焦点

推進研修会を開催

秋田県歯科医師会（藤原元幸会長）は、県との共催で2月24日、フッ化物洗口事業推進研修会を県歯会館で開いた。講師の木本一成神奈川歯科大学准教授は、「みんなで守ろう秋田っ子の歯―秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例施行を受けて」と題して話し、生涯にわたる口腔の健康づくりには社会的支援が必要と訴えた。

う蝕予防効果でのフッ化物洗口の大切さを語る木本氏

講演に先立ちあいさつした藤原会長は、集団フッ化物洗口について、「これまで種々の事業を通して推進してきたが、いまだに実施していない自治体や施設が多く、地域格差が子供の健康格差につながる懸念がある」と述べ、「集団フッ化物洗口に関する科学的根拠に基づいた情報やう蝕予防効果など、正しい知識を習得し、県内のさらなる事業拡大と定着を図り、子供の健康格差是正に取り組みたい」と講演の意義を訴えた。

木本氏は、「同県が平成24年10月に施行した歯科保健推進条例を含め、都道府県制定の動きについて、「平成20年7月の新潟県を皮切りに約4年半で29道府県に達した」と説明。歯・口腔の健康づくりでは、「23年8月に国の法律として制定された歯科口腔保健法に即し科学的根拠に基づいて健康増進計画が進められている」と話した。

また、今年4月からスタートする「健康日本21（第二次）」に掲げられている「乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加」では、安全性と効果が確立し、全国で普及している「施設でのF洗口」のさらなる推進の施策が学童に求められるとし、24年3月現在における施設でのF洗口実施状況を説明。それによると799市町村（全国45・9％）、8584施設、89万1655人が実施。4～15歳未満の人数実施率の上位は、佐賀、秋田、島根、新潟、京都、富山、山口。

この結果を踏まえ木本氏は、「佐賀県では、平成23年度まで12年連続全国最小値であった新潟の12歳児永久歯のう蝕経験本数（DMFT指数）を下回るのが推測できる。秋田と島根は12歳児DMFT指数の減少を確信している」と話した。

その上で、行政の施策としてのF洗口について、「事業としての組織の持続性や一貫性が認められている。公的な責任の所在が明らかで、事業予算の獲得が望める。健康づくりは社会の責任」と述べ、地域歯科医師会の役割の重要性を指摘。児童生徒の健康づくり支援での学校現場等との連携による取り組みを強調した。

平成 25 年度（公）日本口腔インプラント学会指定研修施設
東京形成歯科研究会 認定講習会日程表

予定日程		講師	時間	研修内容
1	4 月 21 日（日）	宇田川 信之 先生 横田 誠 先生	8	顎骨・骨形成メカニズム 歯周学（咬合性外傷のパラダイムシフト）
2	5 月 26 日（日）	鴨井 久一 先生 本田 和也 先生	8	口腔プロバイオティクス 口腔における X-ray 診断学
3	6 月 23 日（日）	塩路 昌吾 先生 渡邉 文彦 先生	8	長期インプラント症例（造骨法） 社会歯学
4	7 月 21 日（日）	堀内 克啓 先生 鵜沼 英郎 先生	8	無歯顎即時荷重 骨補材料としての HA
5	8 月 25 日（日）	塩田 真 先生 西郷 慶悦 先生	8	難症例インプラントについて 私の長期インプラント症例から
6	9 月 29 日（日）	宮崎 隆 先生 石川 烈 先生	8	理工学（骨移植材） 歯周組織再生治療の進歩
7	10 月 27 日（日）	白川 正順 先生 申 基喆 先生	8	有病者の歯科診療 歯周外科の手技について
8	11 月 17 日（日）	河奈 裕正 先生 槻木 恵一 先生	8	インプラント外科手技 インプラントにおける病理組織
9	12 月 15 日（日）	松尾 雅斗 先生	8	神奈川歯科大学実習
10	平成 26 年 1 月 26 日（日）	木本 茂成 先生 浜田 信城 先生	8	成長発達における歯科診療 オーラルライフガード
11	2 月 23 日（日）	今井 裕 先生	8	
12	3 月 23 日（日）	Live Surgery	8	
		研修時間合計	96	

会長が日本美容外科学会副会長へ
会員多数発表予定